もう年ばり今がんす！ 3人の女性社長物語

今、改めて「女性社長」と呼ぶ必要がないほど、女性経営者が多くなりました。女性の時代といわれて久しいけれど、そこには女性ならではの優しさ、強さ、しなやかさがあるのでは？今回は活躍中の3人の社長を取材しました。

アニメに託す夢 社長業からスタッフの賄いまで

（株）エクラアニマル　豊永ひとみさん

「だるまちゃんシリーズ」、「フィチンさん」、「キャラ丸くんとドク丸くん」などの自主制作アニメで知られるエクラアニマル（前あにまる屋）。シンエイ動画で「怪物くん」を手がけていたメンバーが昭和57年に独立してつくった会社です。

豊永さんは平成10年に入社。その前は生命保険会社の外交員として働いていましたが、「自分には向かない仕事」と悩んでいました。そんな折、見つけたのが、「アニメーター募集」の広告。もともと絵を描くのが好きだったので応募したところ、その年齢（当時40代初め）では無理と断られました。アニメーターは一人前になるのに時間がかかるから。そのかわり、経理をやってくれと頼まれた豊永さん。経理をできない理由を7つ挙げて断りましたが、強引さに負けて引き受けることに。「当時前の経理の人がやめて、誰でもいいから入れようとしていたみたい。ワナにかかったんですよ（笑）。でもその強引さがなければ、今の自分はなかったでしょうね」経理はもちろんのこと、ポスターやチラシの制作、制作プロデューサーと、アニメーター以外は何でもやれる、中心的存在となっていきました。平成18年に有限会社あにまる屋が解散、同年に商号を株式会社エクラアニマルと変更し、翌19年には代表取締役となったのです。

男性3人、女性8人いる若いスタッフたちはどうしても食生活が不規則になりがち。社長の豊永さん自ら、日に何度も食事作りをします。炊飯器にはいつもご飯が炊いてあり、自称「賄いのおばちゃん」。毎朝のミーティングでも企画会議でもお茶とお菓子を用意。「食べながら話をすることがキーポイント。問題が起きた時は早め早めに話し合いをするよう心がけています」忙しい時は徹夜もしばしば。ひばりが丘の自宅に帰るのは、夜中が普通だとか。

戦略にうまく乗ったアニメが売れ、良いものが必ずしも売れる訳ではないアニメ業界。同社はテレビアニメや劇場用アニメの演出、作画を請け負っていますが、暴力的、刺激的なアニメは一切やらない主義。その一方で力を入れているのが自主制作アニメ。「自分たちが子どもに本当に見せたいアニメを作ろう」という熱い思いと志でこれまでつくってきました。驚くのは各地でそれらの無料上映会を実施していること。これまでに300回以上開催し、遠くは長崎まで出向いたことも。図書館や幼稚園、保育園で上映するとともに、紙芝居や着ぐるみで子どもたちと直接ふれあいます。作品を見て、子どもたちが喜ぶ姿はお金に換算できない価値があり、次の作品づくりへのヒントにもなるのです。この心意気こそがエクラアニマルの真骨頂なのです。

今、完成間近な作品が「かっぱのすりばち」。福島県塙町の川を舞台にした創作民話で、大震災前から企画していたもの。無償の愛がテーマのこの作品を被災地福島から発するメーセージとして、多くの人々にぜひ見てもらいたいと意気込んでいます。「被災地のみんなを忘れない」という意味を込めて、西東京市内小学校19校に用紙を配り、生徒たちに自画像と石巻の子どもたちへの応援メーセージを書いてもらったところ、3239人分が集ま

りました。このような市民活動もアニメ制作と同時進行で実施。西東京アースデーイベントでは豊永さんが実行委員長を務めています。

そして大いなる夢が「エクラビレッジ」構想。築30年になる借家スタジオの立て替え話が出ているので、東大農場のすぐ横で夕景がすばらしい土地に、地産地消のビューレストランをつくりたい。地下が小劇場で2階がスタジオ。「現実とのジレンマがあっても、夢を持っていないと、人に夢を与えられない。仕事は志事でなくてはと思います」

◆西東京市北原町3―6―10
◆☎042（465）9311

◆◆◆◆◆

両親の教え受けつぐスタッフ育成

（有）パリー美容院　永野郁子さん

パリー美容院は東久留米の滝山にある昭和40年創業の老舗美容院。本誌の好評コラム「身体の中から美しく」で毎号おなじみ。長年にわたり、美容と健康をテーマに執筆してくださっているのがオーナーの永野郁子さんです。

有限会社パリー美容院の取締役であった父亡き後、16年前にトップを継ぎました。「人のために役立つ仕事をしたい」と自然科学が好きだった永野さんは元々医者志望でした。浪人して医学部を目指しましたが願い叶わず、諦めて美容師の道へ。母が30代初め、専業主婦から一念発起して美容師の免許を取り、始めた美容院にはいきいきと働くスタッフの姿があり、「人に役立ついい仕事だな」と感じていました。

「両親とも一人っ子の私を決して甘やかしませんでした。元教師の父は何しろ厳格で、私は寮に入り、皆以上に朝早くから夜遅くまで働きましたね。一緒に働くスタッフに娘だと気を使わせてはいけない、という父の考えでした。自分には自由がない、と若い頃は反発したものですが、今では厳しく育てられたことに感謝しています」

33歳で幼なじみと結婚。娘さんが2歳の時、ご主人が突然心臓発作で亡くなります。まだ30代の若さでした。

何が何だかわからないほど、混乱した中での仕事と子育て。永野さんは自分の心に余裕がないのに気づき、両親との同居を決意。「運動会は娘が走る時間だけしか見に行けない」ほど忙しい仕事。それに集中できたのも、父母の存在が大きかったようです。

その両親も見送り、娘さんも社会人として独立した今、永野さんの元には大切な6人の子どもたち（スタッフ）がいます。東北や九州の美容専門学校などを卒業して、すぐにパリー美容院へ就職し、美容師として、社会人として研鑽を積んできた、男性2人、女性4人、20代30代の若いスタッフのみなさんです。

「技術の習得はある程度の年数を経ればできるようになるものですが、お客様とどう接したらいいか、社会人としての心構えがそれ以前に必要ですから」その一環として、スタッフによる毎日の朝食作りがパリー美容院の伝統です。「健康な身体にこそ、健全な心が宿る」という先代からの確固たる信念を受けついでいるのです。美容師の仕事はいつ昼食にありつけるかわからないので、朝食をしっかり取ること。当番のスタッフが予算内でメニューを考え、買い物をして夕食並みの朝食を8時までに準備。先輩の指導も欠かせません。「同じ釜の飯を食う」ことが家族のような繋がりを生みのでしょう。スタッフの一人は「マネージャー（永野さん）は先生であり、第2のおかあさんでもあります。皆と一緒に働き、食事して、一人暮らしでも家族がいるみたいです」と話します。「その日の声を聞き、目を見ると、一人一人のコンディションがわかりますね。もう親の感覚でしょうかネ」と笑う永野さん。

スタッフの成長をお客さんも温かく見守っています。30年来通っている方もいるほどで、実際、パリー美容院はスタッフ間の仕事の連係が流れるようにスムーズ。とても居心地のいい店です。カット、パーマ、エステ、リラクゼーション、着付けに至るまで美容全般にわたる技術を提供しています。スタッフを外の講習会へ参加させ、定期的に遠方から専門の講師を招き、カットやカラー、メイクの勉強会を閉店後開いています。現状にとどまらず常に上昇志向。それが永野さんの方針です。

「世代間のギャップを感じることもたまにありますが、一緒にいるから私の方も大いに刺激を受けています。彼らの夢を叶えてあげるのが私の役割です」「スタッフは店の財産」という両

親の信条はぶれることがありません。

「美容を通して地域貢献を」と訪問美容にも力を入れています。接客、スタッフの育成、経営事務、資料作りと平均睡眠時間4時間という永野さん。この4月から新入スタッフ2人を迎えるので、ますます多忙になりそうです。

◆東久留米市滝山5―1―18
◆☎042（475）4884

出発点は「自宅ダイニング事務所」

（株）アド・グランデ　畠山美智子さん

電車やバスの広告、BMWやフォルクスワーゲンなどの大きな看板から小さな店舗看板までデザイン制作、施工までトータルに扱う総合広告代理店を経営している女性社長。今年で会社設立20周年を迎えます。

20年前たった一人で起業し、競争の激しい業界へ船出したのがスタートでした。娘時代は銀行へ勤め、その後機械メーカーの経理として働いていた頃、同じ職場の男性と26歳で結婚。1男1女に恵まれ、専業主婦として子育ての最中に離婚。子ども2人を引き取り、ここから畠山さんの奮闘が始まりました。

親の反対を押し切ってした結婚だったので、親にも頼る訳にいかない。子どもを延長保育で見て貰い、キチンとした資格を取りたいと、まず経理学校へ半年通い、簿記2級の資格を取りました。真剣に勉強したので、卒業の時は総代となったほど。この時の先生に今も会社の経理面でも世話になったそうです。

4、5社の面接を受けましたが、「まだ小さい子どもがいるから」という理由でどこも断られました。今のように子育て支援もない時代のことです。

このような経緯を経て就職したのが、バスの標識広告をつくる会社でした。経理で入ったものの、業績不振になると営業もやり、会社から頼られる存在に。しかし畠山さんから見ると、後を継いだ若社長が頼りにならない。5年で見切りをつけ退社。その半年後に独立、44歳の時でした。

自己資金300万と近くに住み世話をしていた義父が出してくれた300万、友人2人が出資してくれた200万、計800万円を資本金にして有限会社「アド・グランデ」を設立（平成17年株式会社へ）。社名は友人のご主人が考えてくれました。出資者であり、娘の同級生のお母さんが「私が妻役で内を守るから、あなたは夫役に徹して」と畠山さんが営業にでている間のサポート役を買ってでてくれました。子どもの塾へ弁当を届けてくれたことも。集合住宅のダイニングが最初の事務所。「周りの人たちの優しさに包まれた出発でした」と当時を振り返る畠山さん。

男性中心の業界の中で他人の3倍は働いたという畠山さん。持ち前の感性とひらめきと人との繋がりで、営業が実を結ぶようになり、「やっていける！」と確信したのは、開業1年後に池袋駅地下コンコースにカバン店の大きな看板をとりつけた時のことでした。

4年後に秋津に一戸建てを買い、そこを自宅兼事務所とし、平成10年久米川町に現在のオフィスを借りました。その間経理や営業、マックデザイナーのスタッフを増やしていきました。街路や田畑などに建てる野立て看板をつくる時は、地主と交渉して借料を決め、敷地を確保します。そしてクライアントと大きさやデザインを決める訳ですが、施工時も立ち合い、高い場所に上がることもしばしば。そんな時にいつでも対処できるよう、パンツスタイルが日常。昼食はおにぎりをほおばりながら、という日もあるそうです。

担当者が営業、デザイン、施工までトータルに関わることで、より早く、きめ細かくクライアントの要望をすくい上げることができます。「仕事に関しては妥協できない、一直線なんです。お客様の要望を思い通りの形にできるよう、常に考えています」

いかなる時も前向き、仕事に対しては自分にも社員にも厳しい社長ですが、物腰柔らか、明るい笑顔が絶えない女性でもあります。自宅庭に置いた、バードハウスや餌台にやってくる野鳥を観察するのが何よりの楽しみ。最近ではNPO法人日本子守唄協会のボランティア活動にも力を入れています。

◆東村山市久米川町1―57―14
◆☎042（399）2722